

日々の田高（宮城・福島スタディツアー報告）

令和7年7月30日から1泊2日で、宮城県石巻市・東松島市、福島県双葉郡浪江町・双葉町を訪問する予定で、朝、目黒駅近くに集合し、石巻市に向けてスタートしました。

今回は、田園調布高校と第一商業高校、府中高校の3校合同で訪問します。そのため、バスではアイスブレイクを行うことにしました。

車内では、アイスブレイクを担当してくれた生徒が、防災クイズを始めました。いくつかの質問の後、「人が死んでしまう津波の高さは、5メートル、3メートル、1メートルのどれでしょう？」と出題し、ある生徒が1メートルと答えました。出題した生徒が「正解」と話したちょうどその時、スマートフォンが鳴動し始めました。

なんだなんだ。教員も生徒も画面を見ます。津波注意報で、最大高さ1メートルです。全然揺れなかったし、誤報では？え、でも1メートルって、死ぬってこと？

バスは常磐自動車道を進行中です。標高もあり、海から離れていること、情報がよく分からないため、予定通りの休憩時間を取り、次の休憩地（南相馬鹿島SA）まで向かうこととしました。

その途中で、津波警報に切り替わります。教員は、インターネットでの情報収集と現地で案内等をしてくださる方とのやりとりを進めます。

南相馬鹿島SAにて、情報収集を続けます。当日に宿泊させていただく、東松島市の集会所は、海からは、約4km程度の距離があります。東松島市「東日本大震災復興記録誌」によると、震災後、国や県、隣接の自治体と連携しながら、海岸から、防潮堤などを3本作る多重防御体制をしいたこのことです。「多重防御は、津波シミュレーションなどを踏まえ、海岸防潮堤、運河護岸やかさ上げ道路、内陸堤防など、複合的な防御施設を整備し、津波の衝撃や速度を弱め破壊力を減衰させて人命を守ることを目的としたものです。」とあり、海岸防潮堤の高さは、7.2m。定川の堤防も4.5mです。一方、あおい地区は、津波の浸水域に入っております。

南相馬鹿島SAは海から離れ、標高もあることから、今後の対応については丁寧に考えました。警報が出ている段階で、訪問することは、厳しいことを前提とし、生徒たちの考えも聞きながら引き返すこととしました。現地を訪問することやお話を伺うことはできませんでしたが、巨大地震の影響を受け、自分自身（生徒も教員も）がどのように行動すればよいのか、事前の準備、情報収集の大切さ、判断の在り方など考える機会となりました。



バスに乗車します。



引き返すこととなったSAにて